

財政難の先を明らかに

**施設の老朽化・・・財政的に身動きがとれない隠れた要因
首都直下地震・・・発災時に施設が避難所として役立つか？**

リーマン・ショック後の経済の低迷に加え、少子高齢化による社会保障費の増大により国も地方も財政難ということは広く知られていますが、もう一つ隠れた要因として公共施設の老朽化問題があります。

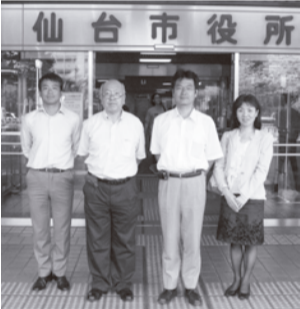
建て替えると多額の出費が伴うので計画的に建て替えができない、だから先延ばしにする、そのうち先延ばしに先延ばした施設が一斉に、これ以上は無理という限界的な老朽化を迎える、その時に果たして建て替える予算があるか、という問題です。現状の財政状況では全部の建て替えは無理。

世田谷区は都内最大数の公共施設があります。【右表参照】いずれも高度成長期からバブル期にかけて、あまり先のことを考えずにとにかく必要だから、ということで作った経過があります。

なかでも学校教育施設は約半分の面積を占めます。今年度で小中あわせて93校の耐震化は完了しましたが、ここは首都直下地震の際の避難所として、地域の重要な拠点となるところです。（と云っても学校施設を避難所と呼んでいるに過ぎず、耐震化完了と言っても倒壊しないということで、避難所としての本来あるべき機能は備わっていない。例えば体育館に空調はないので避難しても夏なら灼熱状態は必至）



震度6強で地盤崩壊した仙台市への会派視察



耐震技術を施した築47年の仙台市庁舎にて。左より桃野私、末岡、田中の各議員。

機能を増やし建物数を減らす？

その学校ですら、もはや建て替え予算の捻出は難しい。（※区の建築改修工事予算額は1990年代当初において年間150～200億円であったものが1999年度以降は50～100億円と半分以下まで落としている。その分メンテナンスが行き届かず老朽化が放置されているということ）

簡単に言えば、現状の世田谷区の公共施設を維持するだけの予算が無い！福祉（右表参照）に回すだけで手一杯ということなのです。

世田谷区一般会計予算 2433 億円	
福祉関連の不足分の税補てん	221 億円
生活保護費	195 億円
子ども手当	112 億円
人件費（職員費）	535 億円
計	1063 億円

※人件費は福祉関連予算ではありませんが予算全体がわかるために入れてあります。

区立施設は700以上、総施設面積110万㎡

東京ドーム23個分

（公共施設整備方針より）

施設種別	施設数	面積(㎡)
高齢者施設 (高齢者センター、老人休養ホーム、在宅介護支援センター等)	51	34,832㎡
障害者福祉施設 (総合福祉センター、福祉作業所、生活実習所等)	23	21,121㎡
児童福祉施設 (児童館、新BOP、保育園等)	142	46,953㎡
その他の福祉施設 (母子生活支援施設、ボランティアセンター等)	5	3,910㎡
文化・学習施設 (美術館、文学館、郷土資料館、民家園、図書館等)	37	55,907㎡
スポーツ施設 (総合運動場、温水プール、地域体育館、体育室、公園内スポーツ施設等)	18	25,624㎡
学校教育施設 (幼稚園、小学校、中学校等)	118	643,302㎡
集会施設 (区民会館、区民センター、地区会館、区民集会所、区民斎場等)	133	74,861㎡
保養施設 (区民健康村施設)	2	12,704㎡
住宅 (区営住宅、職員住宅等)	94	95,010㎡
本庁舎・総合支所・出張所等 (保健福祉センター、分庁舎等含む)	55	73,729㎡
清掃・リサイクル関連施設 (資源化施設等)	5	941㎡
その他 (保健センター、土木管理事務所、防災倉庫等)	36	7,840㎡
合計	719	1,106,734㎡

都政の東西

騒音や開かずの踏み切りなど、地域を分断する線路がなくなり、緑あふれる空間になればどんなに良いだろう。地下化工事が進む小田急線北沢駅周辺の上部利用計画で、世田谷区が示した案は、そんな理想像を示している。

建物が密集し、緑地が少ない北沢駅周辺の住民にとって、緑地は待望の環境だ。しかし、理想像も手続きを踏まなければ「絵に描いた餅」にならない。

今回の区案は、以前に事業主体の都や小田急電鉄と合意していたゾーニングと大きく異なる。小田急が計画する商業施設や住宅整備エリアにも緑地等の整備を加えた内容。いわば、他人の土地に線を引いたものだ。

保坂展人区長は「まず意思形成過程で区案を示し、区民意見をもらい、計画を立案することが重要」と説明する。確かに、そうした手法自体は何ら否定されるものではない。東日本大震災を踏まえ、防災機能を強化したいという考えも理解できる。だが、それが実現するまでには、区民に理解を促す必要がある。理想なくして政策は実現しないが、不可欠なのは関係者の理解も同じだろう。

8月28日号

理想と現実

そもそも小田急線の地下化は都と小田急の事業であり、区は地元自治体として意見を聞かれている立場ではない。区の独自事業なら区長の言うスキームも分かるが、事前調整もなく、3者で合意した計画とは別に独自の絵を公表するのは、あまりにも乱暴ではないか。

さらに、区案には財政的な裏付けがなく、用地取得費などが高くなれば実現できない事態も想定される。たまたまとはいえ、夢を見せるだけで終わりにすれば区民に失望を与えるだけだ。理想なくして政策は実現しないが、不可欠なのは関係者の理解も同じだろう。

都政の専門紙の「都政新報」の「コラム」でも取り上げられた保坂区長の小田急線の跡地問題。やはり区長としての手法に疑問を呈している。夢を見せられて最後は失望するというのが「保坂パターン」に...。今回ばかりはあまりにも多くの区民を巻き込んだ責任が問われかねない！

3.11 後の本当の課題

命を守る震災対策に使える施設の整備を

東日本大震災以降、首都直下地震の可能性が高まっています。地震の大きさは予測できませんが、被害が大きくなれば避難場所としての公共施設の役割は高まります。また発災後の復旧・復興となれば多くの公共機能が立ち上がらなければ区民生活は維持できません。

一方で公共施設の現状は上記の通りです。

こういう財政的背景があって、オモテ面にあるような学校の統廃合や施設の民営化の議論につながるのですが、役人任せでは部分の問題としてしか見えません。区民の皆さんに新築の心地良さをあきらめて、統廃合の不便さを受け入れてもらうのは単に財政難だから、という理由だけではありません。震災対策に使える施設が余りにも未整備という「緊急を要する次の財政難」の問題があるからです。役人の説明でこういうことが果たして理解できるでしょうか。

やはり都政の見張り番 あの男が還ってくる？

27 2009年8月17日号

あんの全く意味のなかった民主台風のあおりで都庁役人に最も恐れられていた後藤さんが僅差で、都議会を去ることになって3年。現在もなお元気でパン屋を続けている。世田谷区が都とギクシャクしているこんな時ほど都の正確な情報は区政に必要なのだが。震災後は、友人でもある南相馬の桜井市長を激励したり、脱原発活動に積極的に取り組んでいる。夏休みには、福島の前被災地と原発施設の現状をあらためて確認しに行ったり、官邸前の脱原発デモに対する過剰警備の問題を追及したりと相変わらずの活躍。また東北の地熱発電所を訪れ自然エネルギーも研究。彼のカムバックを期待する声は少なくない。

投票2万4000人に感謝
「無駄遣い追及続ける」

あんの全く意味のなかった民主台風のあおりで都庁役人に最も恐れられていた後藤さんが僅差で、都議会を去ることになって3年。現在もなお元気でパン屋を続けている。世田谷区が都とギクシャクしているこんな時ほど都の正確な情報は区政に必要なのだが。震災後は、友人でもある南相馬の桜井市長を激励したり、脱原発活動に積極的に取り組んでいる。夏休みには、福島の前被災地と原発施設の現状をあらためて確認しに行ったり、官邸前の脱原発デモに対する過剰警備の問題を追及したりと相変わらずの活躍。また東北の地熱発電所を訪れ自然エネルギーも研究。彼のカムバックを期待する声は少なくない。



あしがき

この1年半、保坂区政とは何か、ということを追いつつ議会でも質問を重ねてきました。

今回は今年3月に新聞折込で区内配布した47号と通常の48号、さらに9月の値上げ案が発表されるということで急遽49号を編集してお届けします。内容が盛りだくさんの分、それこそ説明不足の点があるかも知れませんが、そのあたりのお叱りは同封のものがきで頂戴できれば、と思います。

さて保坂区長ですが上の専門紙のコラムにあるように、理想と現実の境界線が違うようです。いやーこれには参ります。

理想を掲げることは政治にとって重要なことです。しかし保坂区長は、「見たくないものは見えない。見たいものが見える」という理想を振りまいているようにしか思えません。保坂区長にとって見たくないもの、それは財政問題です。

今後とも叱咤激励のほどよろしく願います。

世田谷区議 大庭正明

